

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100407		
法人名	サンキウエルビィ 株式会社		
事業所名	サンキウエルビィ グループホーム玉湯		
所在地	島根県松江市玉湯町湯町1989-1		
自己評価作成日	平成26年6月1日	評価結果市町村受理日	平成26年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成26年6月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年6月開所。「福祉事業を通じて地域社会に貢献する」という会社理念を掲げ実践するよう日々取り組んでいる。また、事業所の理念は、喜努愛楽を頭文字に、共に「喜び合い」、共に「努力し」、共に「愛され」、共に「楽しむ」としており、どんな時でも、利用者と共に歩み喜努愛楽を共に分かち合える関係作りに職員全員で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、県下有数の温泉観光地に隣接した市街地にあり、川沿いの桜並木が居ながらにして眺められ、日常の散歩路ともしている。小学校、観光案内所、店舗なども民家と混在しており、車の往来で賑わいを感じたり、街の人々とも挨拶を交わす暮らしやすい環境である。開所して二年目を迎え、運営推進会議の開催や学校、保育園など子どもたちとの交流などを計画中である。利用者さん方と職員は、明るく笑顔で接しており、会話も自然で和やかな援助関係が築かれている。職員は気軽に意見やアイデアを出し合い、ホームでの豊かな暮らしを実践している。利用者、家族とのコミュニケーションも円滑であるが、法人が行った「顧客満足度調査」で表出された意見などについても検討しており、それぞれについて改善に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者、職員共通の理念を掲げ共有し、日々実践するよう努めている	「…利用者さんと共に喜努愛樂を分かち合う…」の理念は、日々そばに寄り添い共に暮らすなかでの何気ない会話やふれあいの中で家族のように親密な人間関係が生まれていることや、利用者さんが入院などで居ないときでも、様子を心配することなどにも現れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や、近隣のスーパーへ買い物に行き、挨拶を交わしながら出かけている	利用者さんとホームから出かけて挨拶や会話を楽しんだりすることが地域へ向けての情報発信ともなる。学校や、保育園など、子どもたち、また、老人会など地域の人々をホームに招いてのふれあかも計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の業務を通じて地域との繋がりを図るよう努めているが、具体的取組み等は行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告や取り組みなどの報告を行った。定期開催ができていなかった事、サービス向上に活かせる会議を行っていく事を課題としている	二年目に入り、運営推進会議では、地元駐在所や地域包括支援センターなどからも、ケアの向上に向けての助言もあり、活発な意見交換がされている。今後も隔月毎の開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	松江市の担当者へ何かあれば報告、連絡、相談を行い、連携を図るようにしている	市の担当者とは、顔の見える関係を築いており、相談に乗ってもらっている。制度的にも適切なホームを目指している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1年に1回、職員研修を実施している。日中は玄関や非常口等の施錠はせず、拘束のないケアに取り組んでいる	玄関戸は開け放たれており、利用者さんはいつでも外出できるなど、ホームに閉じこもらない暮らしである。また利用者さんは、自由に行動しており、職員は、見守りながら必要に応じて援助している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に1回、職員研修を実施して周知徹底を図り、職員同士が声を掛け合って防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1年に1回、虐待防止の職員研修の中で取り上げ勉強している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、分かりやすい説明を心がけ、理解、納得を得た上で契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査のアンケートを1年1回実施し、結果や意見について職員会議で改善に向けての協議を行った	家族が、訪れやすいよういつでも、笑顔で挨拶し、家族とくつろげるよう湯茶のもてなしをする。遠方からでは、宿泊もできる。その機会に利用者さんのホームでの様子を伝えたり、感想や意見をいただいたりして、アンケートとともに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議で意見、提案の場を設け、反映できるよう努めている	職員は上司にケアの向上や運営についての意見を言いやすい雰囲気があり、それを採用して運営の改善に役立っている。ペットとのふれあいが認知症の高齢者にとって、癒しや生きがいになることから、ペットを飼うユニークな取り組みを計画中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価や面談等により各自の目標を設定することで、やりがいや向上心が持てるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修を実施し、外部研修への参加の機会も設け、スキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会への参加や、同法人内の他事業所との相互訪問などで交流の場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問で本人や関係者から生活状況の聞き取りを行うようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時等に困りごと等傾聴しながら対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問等を通して、必要な対応を検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々に合わせて生活内の事をしてもらったり、家族のように気兼ねなく何でも言える様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしか出来ない事はお願いしたり、分からない事は聞いたりしながら、共に支えるようにしている、		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から情報収集に努め、買い物や外出時に考慮した行き先にしたり、面会者と一緒に温泉に行くなどしている	家に帰りたいたいという、利用者さんの希望があると、ドライブで、家に帰ったりする。かつての職業や、趣味なども大切にして、ゆかりの場所にも出かけていく。買い物で、馴染みのお店を尋ねることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の配置を考慮したり、暮らしの中で利用者同士が助け合ったり、声を掛け合ったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、関係機関と家族との連絡調整等の支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努め職員同士で情報共有し、本人の思いはどうかを考え、なるべく希望に添えるように努めている	ミーティングでの忌憚のない話し合い検討で、自分たちのケアについて、振り返りと確認を行っている。日々変わる利用者さんの思いを理解することは大変難しいが、これまでの暮らしぶりや、流儀、こだわりなどから思いを把握して、ホームでの豊かな暮らしにつなげてゆく。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや情報提供、日々の関わりの中から情報収集するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で些細な事も情報の共有、把握に努め、その時々での状況、状態を見ながらケアを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット毎に定期的にカンファレンスを実施し、家族からの情報を交えながら、話し合いの場を設けている	認知症のために思いを表現できにくい利用者さんなどは、家族や関係者から話をきいたりする。職員たちが気づいたことや意見をもとに、ケアマネージャーがその人らしく生きていけるようなホームでの暮らしを介護計画にまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供記録や支援経過への記録を都度行い情報を共有、振り返りながらケアに取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談しながら、出来る限り柔軟に対応するよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを招いての行事の開催や、温泉街の足湯へ出かけるなど、地域資源を活用させてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望での受診、往診の体制をとっている。医師との連絡は密にとるように努めており、受診の付添いの代行等にも柔軟に対応している	ホームには、看護師が配置されており、開業医からの往診もあって、利用者さんの健康管理は、十分に行われている。家族も、その面では、安心している。体調の変化にも気を付けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、気になった事など看護師に日々相談しながら指示を仰いだり、看護師も必要な助言を行い、利用者が安心してケアを受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族に情報提供を行い、カンファレンスへの出席も行っている。病院主催の懇親会へ出席するなど関係を持つように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として対応出来ること等を主治医、家族と話し合いながら、意向を共有している	開設から二年が経ち、利用者さんの中には、重度化を予測される方もおり、それへの準備と検討をしている。家族や主治医との思いの共有や、ホームでの看護師配置など前向きに取り組んでいくつもりだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救急法の研修行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。地域との協力体制は課題となっている	防火設備はもちろん、法人からのバックアップもあって、マニュアルや実施面でも問題はない。運営推進会議で提案のあった夜間想定訓練や近隣住民との防災時における協力体制にも取り組んでいく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から声のかけ方に気をつけ、入室時や排泄、入浴時等で配慮を怠らないように努めている。定期的に研修を実施し、振り返りの機会となっている	職員の利用者さんへの話し方は、親切で優しい。利用者さんの着衣はきちんとしており、整髪など身だしなみも整えられた姿である。細やかな配慮が感じられ、一人一人が尊重されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食べ物、余暇活動の選択など、一人ひとりに合った働きかけを心がけ、出来る限り本人の思いを出せるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望も多様な中で、出来る限り希望に沿えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類交換時や外出時など、服装を利用者と共に選んだり、整髪なども個々に合わせて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けを一緒に行ったり、好みの物を提供するなどしている	昼食のお汁が、とても熱くて家庭の暖かさを感じた。飲み込みにくい方や病気の方にも対応した献立や調理法を工夫するだけでなく、楽しくおいしい食事を心がけている。外食で時に気分転換をしており、利用者、家族に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を常に意識しており、摂取量の少ない時は嗜好品への代替や形態などで工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを個々の力に合わせて毎食後実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な方には出来るだけトイレを案内し、チェック表を活用するなど個々に応じた声かけや介助を行っている	入居してから1か月間ぐらいかけて、排せつの観察をして、無理のない自然なトイレでの排せつを目指して職員全員で取り組んでいる。普通の下着でいる利用者さんも多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な形で排便があるよう水分摂取や、散歩、買い物等で適度な運動を取り入れ便秘予防に努めているが、下剤を使用するケースも多くなっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人でゆっくり楽しまれる方もあれば、家族の面会時に声かけの協力をしてもらい入浴する方もある。タイミングを大事にし、その時に気分良く入浴してもらえるように努めている	入浴は、リラックスできて暮らしのオアシスになるよう、利用者さんの流儀を尊重している。一人で入りたい人にはそのようにしているが、職員は気配りを怠らない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換や布団を干すなどで快適な環境を整え、本人の意思で休息できるように努めている。夜間不眠や徘徊の物音に反応して寝付けない方への支援が課題となっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を見たり情報共有し、作用、副作用を理解した上で服薬支援を行い、薬の変更があれば観察、記録を細めに行うよう努めている。利用者は限定だが、薬剤師の療養管理指導を行っており、その都度指導を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや生活感を感じてもらえるよう個々にあった支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々を尊重し出来る限りの支援を行っており、ほぼ毎日何人かが外出している。季節を感じられる外出等を毎月計画して行っている	市街地なので、近くには公園、店舗、民家などがあり、町の賑わいの中に日常的に外出できる。人々との交流の中で自然に地域に溶け込んでいる。歩いて行けるお店があって、利用者さんは買い物を楽しむことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には自分で所持してもらい、難しい方は事業所側で管理しながら、希望の物を一緒に選んだり購入できるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有し連絡を取り合っている利用者がおられ、手紙も取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを行ったり、花を置くなど、心地良く過ごして頂けるよう努めている	ホールからは、窓外の風景が眺められ、町の賑わいを感じられる。オープンキッチンで職員が炊事をしている姿は家庭的で親しみが持てる。掃除が行き届き清潔で明るい空間で利用者さんはソファや和室などで、思い思いにくつろげる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベランダに椅子を置き、冬場は和室にコタツを置くなど、思い思いに過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの私物を置いて頂いたり、季節を感じられるような飾りや、ご自身の写真等を置いている	個室は専用であるが、床にベッドとダンスという少々殺風景なたたずまいである。個室でのプライベートな時間をも楽しめるようなしつらえを工夫してほしい。	自室が利用者さんの個性を現すように演出して、一部屋一部屋が全く違う部屋であると思う。ホームでの新しい暮らしにふさわしい部屋を利用者さんと職員とで、作り上げていってほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等での生活に支障がないように、車椅子でも通りやすいよう配置を考え、標示により場所が確認しやすいよう配慮している		